クロストーク

実験・意見発表・討論・質問のページ

2人で平衡・不平衡の聴き比べ会

メリットの大きい平衡接続

玉置 浩，塩田春樹

ことの始まり

本誌のレギュラー・ライターである玉置氏は5年ほど前から平衡アンプに取り組まれ，平衡型イコライザ付きプリアンプを発表(2010年5月号)されたのを始めとして，以降ヘッドフォン・アンプ(2012年8月号)パワー・アンプ(2010年10月号 EL34PP，2012年4月号 30KD6 CSPP OTL，2013年12月号 6B4GPP，未発表のEL 34 CSPPなど)をつぎつぎに発表されるなど，長年精力的に平衡アンプを追及していらっしゃいます．

一方，小生はといえば，平衡アンプの記事を読むたびに記事のおもしろさは別にして，「理屈はさりながら一般家庭では平衡回路，平衡接続ってどんなメリットがあるのだろうか」とやや懐疑的に捉えていました．そんな折，たまたまこの夏前に拙宅に小生のアンプの師匠と玉置氏が来られる機会があり，ハナシが平衡回路・平衡接続に及ぶに至り，お2人から「一般家庭でも平衡回路，平衡接続は効果的で，音の雰囲気，佇まいが違ってくる」との見解をお伺いしました．

そこで小生も少しやってみるかと腰を上げ，本誌にも数作発表しました(2014年10月号，11月号50CA10・CAPP)ように平衡アンプを手掛けましたところ，不平衡とはまったくといってもよいほど差のないものがある一方で，確かに平衡ならではの空間表現が得られることも多々あり，遅まきながら平衡回路・平衡接続のメリットを実感するに至りました．

しかし，この体験はあくまで小生の極めて個人的な受け止めかたであり，客観性に乏しい評価でしかありません．そこで，玉置氏のお宅が兵庫県の明石市と，同じ兵庫県にある西宮市の拙宅とはそう遠くないこともあり，玉置氏に平衡と不平衡の音の違いを聴く実験をさせてもらえないかとお願いしたところ，快くお引き受けいただいたため，9月末のまだまだ暑い日が続く某日，玉置氏宅にお伺いし，今回報告する試聴会を行うことになった次第です．

組み合わせは3とおり

玉置氏は平衡出力のあるサンスイのCDプレーヤと，自作の平衡入出力・不平衡入出力端子のある平衡プリアンプ(2012年に本誌に掲載)をお持ちですから，どんなパワー・アンプでもいろいろな組み合わせで比較試聴ができます．

試聴は，

組合わせ①：CDプレーヤ不平衡出

●玉置氏宅での試聴時の様子，左から切換式6B4GPP，中央上プリアンプ，下サンスイCDプレーヤ(平衡出力あり)，右EL-34CSPP(未発売)

力+不平衡入力パワー・アンプ
組合わせ②：CDプレーヤ平衡出力+プリアンプ不平衡出力+不平衡入力パワー・アンプ
組合わせ③：CDプレーヤ平衡出力+平衡入力パワー・アンプ
の3つの組み合わせで行いました.

使用したパワー・アンプは主に本誌に掲載された玉置氏作の平衡・不平衡入力切替式のEL34平衡CSPPと6B4G平衡PPをメインに行いました. また, 使用した音源は小生が持参した, 日ごろ試聴用に使っているオリジナルはDSD録音のストラヴィンスキーの『春の祭典』(EXTON), ベルリオーズの『幻想』(LINN)と, 通常の48kHz16bit録音のワーグナーの『タンホイザー』(DECCA)のCDを中心に行いました.

試聴は朝11時過ぎから始め, 昼食の1時間を除いて, 夕刻3時半までの3時間強に及びました. その間, 大音響での試聴ですから近所迷惑ははなはだしく, 玉置氏は事前にご近所にはお断りをして回られたとのこと. 長時間の試聴となると準備もたいへんです.

試聴結果

試聴結果を先に述べますと, 両者で合意した結論は以下のとおりです.

1. パワー・アンプがDEPP (CSPPではない通常のPP)の場合は明らかに, 平衡接続化を進めるにつれてダイナミック・レンジが拡がり, 空間表現が明瞭になる.
2. パワー・アンプがCSPPになると, 組合わせ①でもDEPPでの組合わせ③と同等のダイナミック・レンジと空間表現が得られる.
3. パワー・アンプがCSPPであっても, 平衡接続を進めていくにつれ, ダイナミック・レンジも空間表現も優れるが, その差はさほど大きくなく, ソースによってはほとんど差が認められない場合もある.

経緯をご説明します.

まずは6B4G・PP (通常のDEPP)で, 組合わせ①によりベースになる音を憶えこみます. そして, 組合わせ②に移ります. CDを平衡出力に変えただけですが, どのCDでも, 玉置氏「音の輪郭が変わりましたね」, 塩田「確かに. しかも, 拡がり感も大きくなったような…」, 両者「これは平衡に軍配ですね」.

つぎは組合わせ③です. 両者「これはぜんぜん違う. 奥行や高さも違ってくるし, 音の輪郭や定位も明瞭. 効果抜群」.

つぎは, パワー・アンプをEL34CSPPに変更し, 組合わせ①から再スタート. 塩田「おや? DEPPの組合わせ③とあまり変わりませんね」, 玉置氏「同感. 以前からCSPPのよさはこれにあり, と思っていました. 空間表現, 定位, 音の輪郭(輪郭の滲みのなさ)ではCSPPの右に出るものなし, ですね」. 塩田「では組合わせ②ではどうなるでしょうね? もっとよくなるのかな?」.

塩田「組合わせ②によるベルリオーズですが, なんとなく音場が拡がったような感じはします. ノイズ・フロアが少し下がったからでしょうか」. 玉置氏「確かにあまり変わり映えはしませんね. ソースを変えればどうなりますかね」

塩田「『タンホイザー』でやってみましょう. これはまったく変わりませんね. この音場感は録音技師の腕前で成り立っているようなので, もう完成の域なのかも」. 玉置氏「これ

毎度!ノグチトランスです
皆様に御愛顧いただけるように、タムラ、ハシモト、ノグチ等の標準品はすべて在庫(一部除く)
諸先生方の最新製作アンプをお客様の目でご覧いただけるよう展示試聴しております(詳しくはTELにて)
TEL 03(3253)9522 FAX 03(3253)7278
東京都千代田区外神田1-10-11 東京ラジオデパートB1F
営業時間:10:00~18:00 定休日:日・祭日、月曜日
ネット通販もやってます
http://www.noguchi-trans.co.jp/

は差がないといっていいんじゃないですか？」

塩田「ならもう一度別のDSD録音の『春の祭典』ではどうなんでしょう？」．玉置氏「音が上下左右に飛んでいく様子は感じられますが，そんなに顕著というわけでじゃ…」．塩田「同感です．では，組合わせ③にしましょう」

玉置氏「組合わせを変えたという意識があるから，なんとなく変わったような気がしますが，その程度の差でしかありませんね」．塩田「そうですね．でも，まぁ，少しは変わったということでしょうか」．玉置氏「『タンホイザー』は相変わらず変化を感じられません」．塩田「同感です」．

塩田「では，まとめますか」ということで，まとめたのが前述の結論です．

以上のように，小生が拙宅で行った試聴と大筋では同様の結果を得るところとなりましたが，平衡接続にしておきさえすれば，ソースによっては不平衡接続との差がないこともあるものの，差が認められる場合は，より音楽の楽しさ，おもしろさを満喫する機会が増える，といえそうです．

最後に玉置氏の言葉を．「アンプはCSPP，CasComp，平衡回路(平衡接続)の3要素で完璧」と．(文責　塩田)

大沢式MCにチャレンジ

よさはわかるが気むずかしいカートリッジ

洞口寿弘

昨年1月の編集部月例試聴会で大沢久司氏が作られたMCカートリッジの現物を見，そして音を聴いて，完成度の高さに感心させられました．大沢さんのモデルをそのまま製作するのは無理なので，コイルを針先に近づけると音がどう変わるかをテーマに絞って，新しいカートリッジを製作することにしました．

1号機は空芯で，針の真上にコイルを付けました．マグネットの位置も問題で，コイルを針先に近づけると，マグネットの居場所がなくなってしまいます．そこで，マグネットには広い磁界が得られるフェライトの採用を決めました．

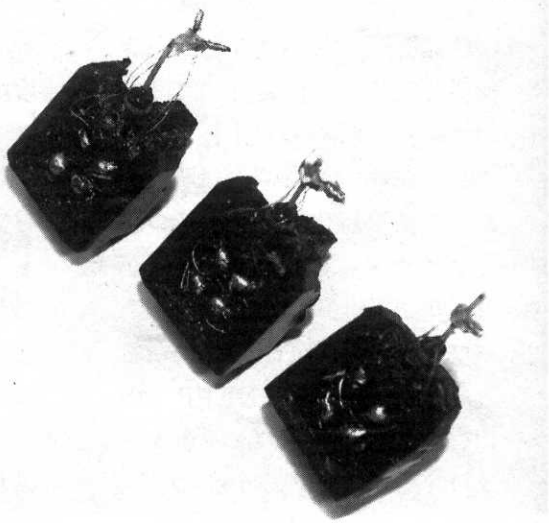
カートリッジの製作自体はいままでのMC製作の延長ですので，少々苦労しながらも1号機は完成しました．音出しをすると，シャー・ゴソゴソ・パチパチと盛大なノイズです．

これで，コイルは針の真上ではなく，ほんの少しずらす必要があるのがわかりました．

2号機も空芯で作り，音出しをすると，低音が出ません．3号機からは空芯を諦めて，0.3mmの鉄心入りとしました．

3号，4号，5号はいろいろと条件を変えて製作し，写真の5号機で何とか音をまとめることができました．コイルは0.08mmを22T，針とコイルとの距離は1.5mmです．出来上がったものは見た目も精度も悪いのですが，いまのところこれ以上触らないでいます．

音は，コイルを針先に近づけると，なるほど鮮度が上がることを実感できますが，もう1つ製作するかというと「ノー」です．それは鮮度が上がる代わりに，扱いがとても気むずかしいからです．



●ようやく作り上げた5号機と試作を重ねたさまざまな振動系